

小精廬日記

大正十三年
九月以降

特別

14

1919

591

50

45

40

35

38- 9379

小折房日記

大正十三年九月以降



九月

一日

昨年の今より五年近く大地震につくは大火災を以てし未嘗有る大恐怖の高嶺也。家屋の喪失は四十億若人命を損ずる十萬餘財産の喪失は五十億を以て数ふ。此年の本日は二万七千の前日と相対驟雨あり。本年の今より二万七千

日くあるを凡方々亦而も一昨年、比年ハ
頗る平穩なるも満都の人昨年を遺憾する
の念甚に熾ん也、と雖の諸新紙、思ひく
に昨年今日を掲げを遺憾を、誠意なり
此の眞意黙禱被難者を甲乙の念無の
可らぬ、和田菊吉高須梅屋とて、種村
出版部の事件を帯びて、大隈大隈志久人
の旅行日記を讀み、十時出版部、刊刊
村久、江田、若菜、と株金拂込方法につき内議
す、大隈大隈志久、高須、梅屋、内外三人と大隈志久

二、大隈大隈志久、昨年大災の起り、大隈大隈志久、
の六人、大隈大隈志久、大隈大隈志久、
念、大隈大隈志久、大隈大隈志久、
高日、大隈大隈志久、大隈大隈志久、
き、大隈大隈志久、大隈大隈志久、
物書、大隈大隈志久、大隈大隈志久、
と出づ、大隈大隈志久、大隈大隈志久、
を閉す、大隈大隈志久、大隈大隈志久、
殿、大隈大隈志久、大隈大隈志久、
施、大隈大隈志久、大隈大隈志久、

秋田と佐生の二郡は政の地界を視察して分る。此の福田大守は昨年此を司命とて有るし。大杉某の與堂に似てせしむる立派の爲めか。答の殺傷する件ハ云々

二日

時服部耕石某の旅行を著す。今津ハ一ハ大隈元辰久人の自記紀行を郵天(一)加葉をもとむ。茂野某(一)此名家遺墨一卷は附此書中福地橋麻帆遊木太刀を細評して

角田作左に示し其書を収め、茂野の友人に之を託す。是也。中田福吾某の午後桂公の傳を觀閱す。大隈信忠の参考。望見とも也。書物卷大箱入三個入とあり、蒲生庄七の計刊の日記式。

三日

時朝東雜録を著す。蒲生庄七某儀く多賀を代卷午後神田に出る。四巻と採り香乘十六冊を得てかへり。山本書店二

十五日拂入午後又雜帳を著す

四日

所朝子龍帳を著し 従して堀河の支店を以て
施出を贈心瓜月堂に 贈心か(三)村の書店に
書札代勘定出を徴す 六月五日より今日迄
二百二十四圓八十美也 今般を考案現人多く
原米四大使 兼て校及出身を以て 堀河内閣に出仕
たり 早速外敷名を以て 堀河に招飲す 今
午後三時半 務(一)より 地震あり 一日以来

初也也 以て彼家後松井部 近日留文二印と
赤坂：轉領十二時帰臥 驟雨(一)

五日

雨 森脇先使依此の件 往來談十時迄出浴
神田の回出を贈心銀堂の山家亭に 午後
を喫す 右解の氣味あり 午酒を飲出 州
未依寐 又景に 列の夜来 柏守部の山
彦冊子を讀む 通宵而 聲を聴く

六〇

而、桂村ハ久江出版部并、印刷會社の件ヲ
訪、紙中宗大ハ、幸多の社債募集の件ヲ
尋ね、結果を告中し、七時を移す、午後九時
を以て又、雜報を兼り、冷氣甚し、火爐を
焚き、終り、花火、雷鳴、、波の音、ハ、終り
ハ、先客連、ハ、一巻也と云、

七〇

日

而、雷、市面をに社、社債募集の件ヲ、相

来、大隈元侯の傳記、ヲ、讀み、下、日を費す
六冊讀了、午後、暑熱、亦、加、午後、七
時、出、遊、村、に、出、居、る、ハ、十四、日、出、物、代、拂
東洋、キ子、マの、映畫、を見、は、是、が、北、洋、の
田原、元、酒、飲、し、て、ハ、大、森、金、五、印、ハ、文、献
喪、失、ハ、就、七、の、施、法、を、定、め、也、云、

八〇

時、八時、有、板、屋、事、功、ハ、大、隈、元、侯、記
并、昨、日、全、部、附、送、を、一、け、り、個、不、を、一、二、説

の訂正補筆を七とある二時間を要す。梅原
の筆の原稿中二卷（印刷の古物の）を入
りきよめ全部あつた。えんを再讀補正
を要す。税務署より所得金額決定書を
送附し来る。余分一葉七十九と三十一同家
族の分四十六と二十九也。大隈侯傳記、附帶
す（キアルハム）の巻頭言（余の該誌を著
記し給ふ）高橋梅原の稿成る。長岡銀
行、擔保の爲に入札を郵送。午後大隈侯
の傳記稿を讀み且つ校す。貸田五畝耳流

九日

昨朝来大隈侯傳記の稿を讀み且つ校し二
冊讀了。十時日清印刷會社の重役會に臨
み午後大隈侯傳記を十月より印刷に附す
るに付其の行程其の経費其のつき傳記編
纂に關係ある増田坂本種村中野森服部
を印刷會社に命じて協議す。佐々木武夫大
社の定例別島知一氏訪。之時染紙の製法
樂しあり内務省の沙石記と長のため早速
惣函三木武夫の大宛友吏を記す。

石川政策に就て内議す、不在中、時内道送
来、夜来雨あり

十日

今日二万廿日平穩、朝来大隈展巻を校す、
三崎良茂来談、高須をも原形判来、明日
来訪を七とあるを批をある、書林松雪を
来訪午後位友紀のこし上耳話、四時梅月
三毛の書須梅話、傳記の校訂を要する個
所を指摘し時を移す、五時を日所、出版

部の出版と就このお宿舎をひき、坊内道
迄、其他早稲田出身の文章者金子五十丸
外、教名来り、お宿の夜晩お話を進め、
散会後、高須梅話、(注)西村真次を指し
て神楽市以田原尾と飲む

十一日

晴、改正弘雅、馬の注釈を多く、中田謙
平、堀江源を来稿、十時迄の協定、古蹟不
利り文化、
野原：就て協議す、午後協定を

考う神田の四子物を贈る。坂本三郎
島井中村康一の妻の訃に接す。初八日
示手形一件。行方不明所、呼出しを
言ひなす。名示法を運動する。行方不明
海井房。四子物を贈る。坂本三郎
即ち魁の物語一冊を贈る。坂本三郎
秀道長をおくる。示手形一件。行方不明所、呼出しを
十月廿五日迄延滞の報あり

十二日

雨期来大隈彦彦記稿を讀み且つ校す。水久江
成一子訪令社の要件を内儀。在座又二行す
治平後彦彦来人の以て。播磨。又出遊
神田の山崎を訪ふ。終つて四谷の三河彦彦
す。三時迄を而る。去身。然。行方不明。中四
末改の被書。大隈彦彦記稿。二十日
拂

十三日

雨期来大隈彦彦記稿を讀み且つ校す。

あゆ美次郎の、向う来地又二部の伝説を
て也、森脇五郎、傳記のより文化勸進会のもの
を協議す、古池幸三も、羽宮の寸法画冊を贈
ふ、午後恆本三郎等の告別式に臨む、田中
松江の訃報も、又大隈侯の厚好を讀み、夕
刻に之を、目下句所とし、其著麻友在文集に
冊贈らる、扇子二把押毫

十四日

昨朝来大隈侯傳記の校し、時を移す

山崎の文次郎、身泊長世を新泊の人と嫁す
る、三村文之助の伝説も、あやう出づ、宛録
を筆し、午時をむ、城後宮の町村山亀一
郎も、味噌一樽贈らる、午後恆本三郎の玉
座を訪ふ、細川と國公と贈ふ、十田押毫

十五日

昨、冷氣加り、山崎も、依頼に件有、新泊松井
郡治に伺す、大坂故土居る、スの伝説、扇子
副克郎も、寄贈を受く、山田氏、此来次郎

須知行森脚と相めし傷記簿の上より(同)
緊急の協議を為す十時出版部の役員会に
臨時十月一日株主総会をひきき井上田拂込
と件を決す本日出版部境内に建築中の
り印刷部と工場棟式を行ふ二時早大
の維持委員会に列す改正校規に依り維持
費の改選を行ふ余亦奉けり村山逸一
印土名副吉印に謝意を為す、難解
と華りて夕陽にむす。

十二日

小雨冷甚し相立難解と事久、廣井一乘
話、日本圖書館協会と事、坂口献吉、
功山盛寛、次印と事、岡又橋、豊彦、又
一都と事、七事、新井松井、郡次、内藤
久寛と物と事、午後大面、到る日本書
館、新株の拂込也、知事(功)十月
廿日一株二付七円五十契也、持株卅此拂込金
額二百二十五円也、小林又七と物と事、
通ハ大り、病氣、件、付云々、出版部

ニ全融を輸入し五万圓証券を母巻する、中田
海吾編纂する編纂を来訪、

十七日

雨風吐夜猛烈と而降りつゝ今朝池水満漲
時の積沙水に没し鯉魚池と躍るこん
近の大雨に動うことあり、大倉の爲め此儘下
し等々も危うう、而も重の大雨吐云しの量に概
少ることあり也、今朝而る新橋、市内の生
大想ふへし、森陽美樹と相討し大隈彦

徳記出版経書と協議す、山田清山復装
今来訪新書と来訪、本の先考の廿三四六
ニ丁、法要の爲め怖者を来月に延す、午後天
候漸かく回復光を伴ふと出遊、神田の衣衣を
訪ひ山本ニ巻す、因に松重等、七月廿日、神
田に及物を焼い活動映畫を見、牛葉を
飯し、和らふり、油毛

十八日

晴、小文江城一分社の要件を内紙して去る

乙山崎免治中より免状をなさけの件に關
 心故に山崎へ轉送す。栗林羊一斗の物
 を贈る。内山有三斗と十粒の泡草の枝
 料を茶と銀七しめの三時間ここしたる午
 夜後去る。内山又免をとりし事も修養者
 行を報す。改上公免するに射を施すと考ふ。
 脇金孫、自ら免状倦むる外出。田原の地を
 訪ふ。細山免状二十斗。折込二三の斗を解ふ
 田原免状、酒屋方、田原敏夫より来た。地
 主外八間。種、飯、種、竹、内外、小兒科、開業を

報し来た。敏夫は乙友田原柔の者も也。希
 田原信廿二の免状分のる。降到、板松家の
 母の訃報。徵稅符到。所得稅三万三千
 八圓六十四匁。附加稅六十八圓六十八匁。外
 一家族に今十圓六十九匁。總計四万六千圓
 也。余の所得額二萬圓と突破したる結果
 稅七又増加す。此

廿一日 日

天氣陰鬱 冷氣を受ふ 朝より多量に旋

公を懐く、大隈任考... 早大... 社債募集... 山陽の道... 午後雨... 自感悲淡をたとひる者尙棄を草しり。

廿二日

而、帝道... 秋葉... 山本... 中田... 浅...

廿三日

秋葉自筆

所、三枚守... 秀典... 十回贈...

旅録と身事しし時を移す、父江村一合在り得
二月内話し七去り、以後日出谷村、平田とてゆりし
頌徳碑除幕式(十月廿日)奉行につき余も、
状を寄せしむ、此碑文の余の拙筆、係りもあせ
午後伴ちし一二の書名を訪め、松雲をて、五峯
日蓮書と捨し二三を贈りてゆりし

二十四日

時、大長木米の訂心附箋の大隈彦信松隈内
閣下を換し、木八締の稲藁干を讀み、京都

錦芝山宗兵衛次男(早大在り)斗功自物也、
陶器を贈る、中由論書有る大隈彦信此の稿本
を交付す、三枚有るをゆりて夫人の拙書を寄り、
森脇合勢より手紙、徳記出版社、三楽城
の、三末武吉、
去りて書を付ひ出せ、破損の眼鏡を新巻の金四
枚し、映畫を見、天金、飯七、
加税、
加税、
加税、

二十五日

明朝東大隈侯傳記稿を讀み且つ校す
並木寛基の法、石井安大守の書、高須栴
侯の問、田中柳江葬式の通紙、二時
早大の維持員會の臨、今月八日、
出立生寺大觀八九を輯をよくり來り、内山
省三の問、寢後木下幸文の歌集
を讀み、又施録を著す。

二十六日

明中田御書、安田恭子山田武村森田服尾

樹文の身指、三木、世の受の器、二歌前
臨男爵におくる、二時、み市高坊に柱ける三
枝五人の告別式、信玄、由全、東台、美術
院の展覧會をも又、震興會の報告をも
又、二書店と訪ふて、田中を贈ひ、木下、金
田中、到る、久須美おと代、大隈侯に、此書
に、授る、物書に、紙入を、よくり

二十七日

而、相身施録を著す、林毅法、大隈

久須美く香状を夏方、新酒石塚三戸と妻の
方と別具、有体を是い午時美酒二瓶と
傾け、赤筆視之、親しむ支那時局：對し四
民的大集合と為せん為の是記人たんこと
とため来り詠言を是ふ、中田福老十子幼害
災より破損せし碓子障子若干修理する、
落合所有者と満地の經界と畫す、
ある境界：宜く八ヶ岳二十石と記し成り代金
三十由拂、三時先を付して神田：物を張ら
夫：領し七かへる、松宮を、同出代十由山本、

二十八日

町古池寸珍書函帖と持冬勝ひ入、價廿五日天
里方畫石在梅在酒田等を収む、沙の舎々長平
山成信より洗是軒初結文庫也、設三付十月三日五
葉徑系印、古古内狀来り、大隈彦徳記の物を
授り、大不理の来流、午後秋時、乘り出遊
赤坂湯池の害、米康境事者、會場：列り
龍、赤坂迄を敷葉してかへる前、
龍の浦記を託るものと貯る来り、前日あ
るも貯るものと支那料理を託る、

一、秋物もそろそろ

二十九日

雨、坂本三印ととも七り大隈へ招き、今日よ
り随筆頼山陽の整理に元か、只、不しかき
を直し、凡例を修正、一通り仕舞力し、印刷に
回してんことを期す、終日雨、甘く外、出まら
ず、山陽の原稿校閲九うど。

三十日

晴、朝、頼山陽を校す、石塚三印分は
八一森脇安田恭吾交、来り、古池三書、花
二十日お渡す、坂上弘花、例の注射を交
く、晩方出、神田と帽と購ひ、又二三書、店を
訪ひ、荒干を得、夕、山本書店、十二日全
十冊、

十月

一日

雨、新肉子と克、歯牙の治、原の内出、中

の石塚よりわき、木林脚より大隈屋傳記
印刷の版式を定む山田河内屋復松公の
件よりすまの、先月福松を譲る所領金泡
一冊配本を交へ、出版部より内務省仲の
耐震構造論を配をし来り、十一時出版
部の株を譲るに決む、豫定のもより新
株廿五圓の拂込を決し即日拂込拂込
至八年三分六厘を代理部より借入
五年分より元金償却に約束也借入
金七千一百二十五圓也、余のお株二万八
千五百株に、是れ校印おまゝ有長の件より田中
現よりと内務省に、保ありて送と西村君の
件を内証しとか、又、随筆新山陽の稿を校
し一夜三入り

二日

雨霽、朝より池原山陽の稿を校す山陽の完
次中、年功中、其の心成り、次為稿を贈る、
協定日曆の稿を周送と書き、おまゝあり
きし、のり、縁後、つき更、伝託を交へ、田中

積積多功、男維持ありて、内海と云ふ、
程村家ハ中田海舟、午後佳又光を伴
りて出遊、銀座と柏を賭し、井原と飯と
ハ一日、夜二時也かく地震あり

三日

時、朝早、随筆山陽を授し、且つ板板補足の福
を為す、回公飯場等の深江、鳴里、長橋、校友
山崎勉、沈桂、副輔、来治、桂を二三、以て恨伏
す、松井群治、之れを、関太郎とす、自ら
行く、

午後、随筆山陽のけしきを書き、且つ、この
原稿全部成る、尚ほ再校を要するもの若干
あり、且つ巻中、挿入の書畫、これらに決定を
要す、四時、日本三業、從来部、拒え
行く、

四日

時、隨筆山陽のけしきを書き、且つ、板板補
足、橋本四郎、を、粟を、野村、来治、九時、文の
協会、多功、不、所、文化祭、の、多功、文の、出、

の決案を渡し三時におり午後出版部へ
大石宛内へ遺書山陽の稿を交付し行
村と政武其他を協議し山陽印刷へ回す手筈
也、二時早大の維持委員会に出席し理事
の選考を為す、論議多しと奉け多し推
薦の爲め、大隈守級に言の旨をいし、五
角和紙を二葉を贈り来る

五日

日

本日午後三時三十分、設けられた東洋院

本部を会場とし、都下の書行書屋火後初
めて即ち展覧会を設け、午後六時開
り見物、数點購入得て之を、午後又先
七時あり銀座に物を購入由路四品に
回り、三時尾へ飯食、十時迄地震三回
お経をおこし、二時音ありつてく

七日

兩古池書三時あり九時文の場合の江川
東の文化野影分の折込書印刷せん

とす。旋風と颯斬の旨の致方を載え
とて余の意見とを考へしむ。六の次
以来文化推移の旨、懐強と筆子保
せしめ三時、三時、午後一時、比
谷園若殿、開方の日、園は飯場、有、福、次
及、居、と、伝、又、来、月、の、園、出、館、テ、し、し
漢、し、堀、浅、す、石、有、時、方、を、長、す、こ、こ
多く終、六時、三、色、の、一、回、市、し、つ、附、也、の
晩、御、平、軒、支、那、料、地、に、入、り、酒、飲、す
十時、物、色、四、代、其、以、中、林、部、に、あ、り、

来、也、城、後、塩、津、橋、良、助、を、物、を、贈、り、来、り
先、取、結、婚、の、後、の、返、礼、也

七日

而、植、良、助、高、格、松、四、郎、の、物、を、贈、り、来、り、漸
と、考、へ、し、む、市、山、筋、も、吉、田、東、使、の、歴、史、地
理、再、故、新、米、増、来、り、松、雲、堂、に、開、す
十時、日、清、印、刷、令、社、の、重、役、會、に、臨、む、午、後
令、社、に、増、田、坂、本、社、村、東、柳、寺、と、大、隈、彦
傳、記、考、考、法、定、價、強、弱、并、才、を、評、決
す、大、隈、大、隈、會、館、に、坂、本、三、郎、に、招、き

す、午後五時を以て銀座迄は、物と猪心、伊集
屋陣列の支那祝と見、味素、飯とかが
通す、雨降るつづく

十一日

而、大改吉田祥三郎を以て龍軒行状
并遺行一部書を集め、午後一時を華族
會館を今病室として文部協会の茶話會と
ひらく、身今有七十張、山本忠興の勅
力に就ての海流、久しく米田、あきと種民

のたこ通し、且つメキシコを研究して海流
全三のメキシコ種民に就ての海流各々一時
す、こころ、夕刻會を閉じ、此日余も文
化新聞分記にふるを為表す、不在市
坂本三郎、市山亮一、來訪。

十三日

晴、成親の大掃除を行ふ、種村宗八、英木定
貞の法、十一時内務省を以て、訪ふ、物
屋神田の巻、店に二三の圓を、持たせり。

午後宛録と書し、出版部と並刊書
四種配本、田代亮久と書す。

十四日

時、長井一斗、宛録の内山省三来る、坂江献
夫先人の関歴草紙の比免来訪に授けり、
山本吉庵系、松室堂十年の物と能く、
三峯(意)寺の内、五山堂の物と能く、
入あり、と贈り、由田通吾大隈彦徳紙、
料、宛録の宛録を報す、朝来宛録と

宛録を減と加、午後曹庵寺起り、
を慶と所、宛録唯比、宛録を用り、
宮井安光の計り、早大と作、
類列、二十日、早大と作、
宛録も、宛録、宛録、宛録、
宛録、宛録、宛録、宛録、

十五日

時、今朝、宛録、宛録、宛録、
宛録、宛録、宛録、宛録、
宛録、宛録、宛録、宛録、
宛録、宛録、宛録、宛録、

副会社の職久遠足分りあるあり、内ヶ崎心三
即に出札を交り、宮井安夫の葬儀に代人を差
す、萬原出店に海義録各科二部責却代二
十五日也、木崎受吉に簡し七階布と頼山陽
の序をもととし、新田亮左衛門と来り、今
分前年北沢修枝に連載の京山と牧之とを
腰書二冊と、是に紀念の为り筆と首に題
字をもとを交り、石塚三郎出京魁の味噌
漬一樽を贈り、日出谷公之を建碑式の紀念を
と野々来り、三時出遊、宿に、おと娘の寺に

田原尾に飲す

十二日

時、冒晴回復、前崎家法塔に自祝物を贈り、
小久江会社の要件に付来り、午後兩、狩録
を兼す、木崎好方より功其著、海嶽十冊を
贈り、和久分記に、

十七日

新嘗祭

此秋月の翌日未收り、翌日の下坪を以て
来、石塚三郎より功其著を贈り、新嘗祭

朝をきりて時を移す。二時石塚三郎光河
伴東台の院展を観る。三時半石塚三郎
人、数来紙世に致してかへる。而して崎地三郎
の五曲に接す。四時三時と寒氣あり。江
川流る。降雪を報す。

十八日

時、往村宗八出波部の件を直り。以上山籠
在候。三時一、四時。十時文の場をう。後三時
部合とつまき。三時。開きの文化。野影。合

三時。此殿のものを凝視。午後三時。利る。
今、得道海。二間。直。此。桂。次。郎。より。来。也。
直。五。道。河。を。投。す。一。賀。田。直。流。安。成。流。古。池。
兼。三。年。の。書。此。代。二。十。日。お。お。り。夜。日。本。名。油。
史。を。淡。古。深。更。地。名。あり。

十九日 日

雨。今。夕。の。雨。即。前。合。此。の。現。在。歴。考。遠。近。
合。考。の。皆。一。字。も。わ。り。余。行。か。ず。大。石。肥。田。身。
次。余。の。問。答。も。新。山。陽。の。信。を。授。合。二。の。三。紀。

四紀行を讀む、米國紀行より漢文抄本政の
爰今迄並出をす來也。

廿一日

而、日以各國書綴り、即波武林内筆卷、才月
一〇と、才月二〇と、國古綴デー一の紅卷、一〇と、才
淡、小林堅三、馬幼、才文化、歌影、今の紀念
陳列、有、或る方面の地位を、托す、素、藤田村
既に別、陳列の品目、つき、協、江川、
文の回顧、淡を、録、前二、田、淡、
一、多、補、遺、也、午後、種、村、を、報、為、二、三、の、文
を、協、議、す、前、路、娘、結、婚、校、お、海、に、報、え、
五、時、帝、山、ホ、三、三、の、到、り、高、橋、義、彦、も、
未、也、

廿二日

而、新、島、島、文、在、家、と、中、に、し、才、東、也、紙、後、古
志、那、為、頃、村、瑞、橋、義、彦、も、し、自、徳、之、酒、一
瓶、を、送、り、來、り、本、心、瑞、橋、義、彦、を、訪、ひ、二、三、の
圖、表、を、贈、り、二、十、日、拂、入、山、田、武、田、村、の、功、夫、

吹竈助膜、と坂上の病院に入る。芝の村幸、
リ寸珍を、と為持使を、老翁、徳本鑑歌仙六冊
贈入、價十日拂、論、午後、再、以、走、を、使、の、出
淑、生、に、物、を、贈、以、映、畫、を、元、井、葉、身
に、飲、し、と、あ、ら、う、大、鳥、井、桑、三、ら、と、年、志

二十三日

而、公、校、職、員、片、山、武、ら、協、派、紙、後、行、の、日、を
廿、五、日、と、定、む、岡、原、所、在、の、紙、畫、禮、儀、の
序、を、請、ふ、と、あ、ら、う、珍、産、以、任、官、司、之、而、奉、英

夫、耳、の、石、里、男、の、名、久、之、實、に、紙、の、名、刺、を
其、不、中、田、詢、吾、年、後、紙、後、行、に、片、山、武、ら、
第、四、中、石、塚、三、ら、丹、兵、衛、平、一、ら、岡、原、
大、鳥、長、壽、三、ら、答、書、を、あ、ら、う、新、地、真、太
郎、の、囀、に、あ、ら、う、東、山、と、牧、三、ら、の、名、刺、を、の、首、に
細、書、を、懸、す、木、崎、好、名、と、し、其、名、を、紙、合、在
平、十、五、日、廿、五、日、と、迫、る、廿、五、日、の、日、約、年、に、の
き、云、り、す、困、り、も、あ、ら、う、也、此、が、い、多、の、入、を、七
さん、は、延、約、難、し、九、時、に、地、震、あり

押入、松宮中、八日、松宮、押入、出版部、
近刊、松宮中、八時、三十分、片山、同件、上野
茂、汽車、に、投、し、心、省、の、途、に、就、く、先、考、に、法
要、を、言、ふ、の、由、に、早、大、の、記、念、を、業、空、可、謂、差
集、を、為、と、ん、と、す、る、也、車、中、一、松、井、郎、石、里、代
次、り、市、川、醫、子、博、士、に、會、す、

二十六

昨、汽車、由、三、浦、夜、未、以、明、け、す、八、時、已
新、津、に、下、車、新、島、田、行、汽、車、に、乘、り、換

由、博、田、義、一、の、身、主、六、石、塚、三、郎、加、賀、子、三、三、
一、は、二、新、島、田、三、郎、の、身、主、三、郎、高、橋、尾、に、投、未
丹、美、原、平、一、に、會、す、法、要、の、お、と、お、十、三、三、
翁、尾、と、い、ふ、葉、子、尾、に、法、又、の、後、日、午、前、出
来、の、ゆ、也、因、ら、し、と、来、電、松、川、才、四、中、長
室、と、い、ふ、五、十、分、の、河、念、寺、に、出、被、と、為
特、危、脚、を、考、へ、校、友、高、森、集、深、村、本、十
郎、才、中、功、石、塚、三、郎、北、浦、善、堂、集、の
子、と、内、藏、美、を、校、友、十、數、に、招、え、北、底
館、の、お、と、お、臨、み、席、上、演、説、を、為、す

二十七

時、新嘉田の安念寺より早記寺より旗本帯の
 随筆と讀む、ハ時中宿とある、ハ五十公明ニ
 赴く淨念寺ニ到り、讀經と讀む墓を展し
 善を献ぐ、尚先考の靈ニ托著シ誓死シ
 夕活大隈侯(三三)行と捧ぐ、先考歿後
 二十三年一を經過す、後任聴せし止、冥途
 感無量十す、十田前寺、五田布施をせ
 し、直ニ芝田ニ由り、干時十時中書、去るよ
 リ関大り、中書、念寺を經りて、讀む、年

後活の中田の身活、二十七年、新嘉田の西院
 新嘉田の報り、廿六日大隈、今讀に於ける早
 大校友、今と在り、高の今長、演説中、元漢
 二名、突如、今長、迫り、燬、浮神のよ、七、投す、
 之れを換へ、ん、公、集、果、尿、を、田、鑑、ニ、成、る、た、り、の、
 元漢ハ秋、お、今、多、り、ん、直、ニ、建、櫛、する、と、不
 惡、我、憎、む、し、片、山、松、川、あ、人、市、内、の、校、友
 在、歴、訪、して、墓、集、ニ、取、り、あ、る、身、活、各、侍
 不、奉、回、先、生、濟、氏、の、廟、を、山、上、ニ、移、し、旧、朝
 址、ニ、碑、と、建、て、以、り、除、墓、布、式、を、行、ふ、と、又、云、く

本日齋光寺に書畫見習其書の工真古今あり余
かぶ家の不田をよとす也と清中四
を成しと新島田田也故に荒言一々後と書
贈りて客散し無聊を感し行李中しと云
本を出しと清中、國書者彦磨か葛西因是
の琴後集(春海歌集)に題しと漢文
の序を難しと書讀也例の四より書備因
の論を難しと云ふべきあり。四書を宗友
と思ひ込みたりと漢文家の言ふ不見
九の言と氣と吟いと七五と云う、國漢両問の

鴻溝を知るの二資料と云ふし此書讀ハ因是
一冊を二冊と云ふ実用しと云ふの附記あり
橋本彦彦と云ふ流るる出を教
来りて潤中北嶺新報の爲の活動映畫後
に入るべき書題を清中、余がめい、吐嗟十三題
を撰む、曰く十二村の開牛、曰く白根の夕夕合
戦、曰く大河津の陣門、曰く雪中のスキー、曰
く信川の駐迹、曰く石油鑿金井、曰く海川流
の勝、曰く八木の風色、曰く新潟の校書、曰く
益誦、曰く親不知の咲、曰く彦彦と云ふ齋光

曰く春白山今夜松井郡法と高橋殿に飲
去、依後年月に轉飲、高橋殿舊主
の量女おる割定、店主人、祝儀も多し、満
酒の家より料地亦可多し、十二時泊所

二十八日

昨、宿休、氣分悪く、朝昏、麦酒を飲去、丹
吳新河、一處り、舟の、善集、多福と揃、
兼月、二毛り、丹其、之飲、去、妓の、以、免、揮、舞、
五時、甚、四、を、見、し、新、河、に、赴、く、今、夜、伊、天、

利軒、に、往、り、校、友、分、あり、新、河、着、後、故、殿、
入、身、其、に、今、坊、に、在、り、早、上、一、時、の、演、説、を
為、す、校、友、七、八、と、錦、茶、屋、に、轉、飲、研、
院、館、に、少、く、訪、す、関、中、に、在、り、と、是、
片、山、下、新、本、寫、治、の、二、行、添、書、を、認、め、無、
治、の、あ、い、し、あ、を、祝、儀、に、配、布、あ、い、
代、二十、一、月、拂、兼、月、幼、定、三十、日、拂、
高、橋、義、彦、に、會、す

二十九日

雨、中、前、中、洲、を、得、て、真、山、桂、公、印、を、滿、川、

初、更今朝東至とゆふも真に芝田、外き不
立仲大令と誤し午飯の響をきか一時寸
辭去、途中、暑風、過ひ竹壺、雨後、えと
す、三時、新河、かへり、地味、後の車中、河風
のや鋭と傳ふ、真峠、リプトンの紅葉、二個、持
参、山田、教、城を、ねき、まを、玩、美、山、中、相、来
流、片、山、下、新、本、宿、訪、問、し、と、ゆ、り、云、ふ、す、不
山、勘、花、石、塚、裏、す、ま、り、野、菜、を、贈、る、今
夜、六、時、の、汽、車、し、と、山、東、線、定、之、を、一
日、延、ば、す、直、崎、東、東、本、宿、前、崎、男、ノ、電
信、を、見、る、山、中、山、田、片、山、を、柱、し、七、紅、梅
、飲、む、大、い、餅、具、を、竟、り、終、夜、暑、風、怒
邪、碎、夢、式、回、か、破、り

三十日

風や初天氣復す、今朝片山出る丹兵を伴
あ、羽、々、復、開、井、と、初、見、と、す、夏、意、不、測、と、湯
着、風、の、麻、布、雜、記、を、讀、む、真、崎、様、次、郎
、早、幼、寺、時、間、と、ま、り、長、政、の、題、目、久、地、を、論
し、牛、乳、を、饗、り、と、列、る、山、田、教、城、上、の、地、喜

永次身病、午後疾漸やとまり、人の為の揮
毫す、お梅お初のお定四十日拂り、石
塚三郎、其病、六時回東の途、三つと、去る途
石塚同伴、去る途、潤大郎、娘を折りて車
中、来りる合、心静を賜ふ。

三十一日 天長節

時、七時上野着、喜に留毛、不在中、出来の
お状を陰す、依原政大り、手形一件、
其由、新中、亮、ちり、こと、謝と、日本圓と

結城、二日、日本石油會社より、本城
配中、大隈、今、得、益、海、等、と、其
由、又、去、る、途、より、来、出、即、大、決、に、到、り、来、
ゆ、り、来、り、す、東、城、別、谷、村、天、り、と、其、由、
坂上弘花、才、り、例、の、注、射、を、施、す、日、本、石
油會社、新、株、三十、株、拂、込、一、株、七、日、上、表、大、倉
二百二十五圓也、昨、日、拂、込、り、矣、吹、一、紙、後
の、果、糖、を、考、す、去、り、山、大、隈、一、魁、の、味、増、後
一、符、贈、り、大、江、に、疾、つ、り、流、入、院、中、の、矣、吹
去、り、退、院、多、く、可、ら、ず、と、者、状、を、以、て、其、由、

以後古志郡為頂打能指民者酒を賜ふ
た禮状を賜ふ午後祝砲奉祝以て出づ
死敷瓶を賜ふ天王宗家より來出且者
を賜ふ來り先乃法家より賜ふ也能保
を奉り時を移す者過る目録可山重
与到來

〇十一月

一日

皇天の乳文三約手二件存佳事を功に成る
やうやく方法あることと語らるる遷るん位しか
らしき事出ぬ約手二物取手更なる差
入早大分村方出取部方と市川の水西と
是より森脇本流、昂閣西より由着今日
より七日間因吉殿デ一也國民に後書に
すある二付券記者今も終六書に一記し
まざる可なり波迎式況印出田海心等耳

酒、今、浮遊、海、者、状、を、覺、え、午、後、閉、を、得、し、旋
録、を、筆、す、二、時、を、過、え、符、を、袖、に、取、り、出、し、
拍、を、踏、心、外、を、為、し、身、を、二、致、し、と、ゆ、く、外、出、
中、塚、原、園、遊、す、り、酒、又、菊、花、を、二、瓶、を、
と、贈、ふ、夜、未、而、

二日

為、氣、あ、り、情、の、朝、来、あ、ま、る、庭、の、是、の、午、入、
こ、多、く、時、を、費、す、新、作、の、祝、會、飯、村、俊、次、
海、子、の、ち、り、し、の、長、及、ま、を、漏、し、は、る、る、本、り、ふ、

包、を、し、出、す、午、後、天、氣、亦、亦、曇、り、風、起、り、旋
録、を、筆、す、り、別、紙、中、國、有、銘、海、子、の、百、現、
る、り、海、標、并、自、動、車、に、日、乘、車、の、初、
今、四、の、本、の、幸、に、成、功、し、市、中、宣、傳、の、好、況、
を、説、き、多、く、の、出、類、を、贈、り、直、ち、よ、去、り、矣、吹、
よ、り、拍、を、踏、る、る、亦、亦、毎、日、に、あ、り、二、三、日、來、り、
曰、此、に、此、座、の、人、物、味、を、刊、行、す、る、に、廿、余、の、種、
庶、を、也、と、も、す、と、此、に、類、即、金、を、出、せ、と、云、ふ、
あ、し、余、在、少、を、取、の、り、規、由、を、以、て、控、せ、り、
咲、る、花、を、付、き、る、祇、女、夜、に、拍、を、踏、ひ、田、原、屋、に、

致す

三日

快晴、皆の列、風枯葉を吹拂ひ満庭、夜葉
堆を為す、朝集文化、歌、新令の趣意書を草紙
す、柔脚、美村、中田、湯、吾心、人、渡、送、寛、一、身、次
相と贈る、高橋、半、東、義、彦、出、柔、互、功、可
梨、果、を、贈、る、午後又宮内省に差出すべき歌
新令の趣意書を草紙す

四日

快晴、桂村、柔、脚、半、東、義、彦、出、柔、互、功、可
湯、早、大、作、持、美、令、心、香、類、列、達、古、池、山、湯
の、香、詞、と、持、春、令、心、元、己、及、寸、坂、口、五、等
一、通、忌、法、要、第、子、柔、列、の、中、唯、歌、流、色、梨
果、一、函、列、来、十一時、神、田、の、書、展、を、訪、ひ、四
五、の、香、を、贈、る、村、の、五、十、田、山、在、一、三、十、田、細
川、二、十、田、内、拂、風、月、に、飯、一、七、か、へ、る、文、的
場、分、世、刊、カ、ア、ペン、タ、ー、の、吾、日、吾、夢、配、本、京、都
錦、光、山、宗、兵、衛、と、し、年、信、後、後、若、夢、通
を、よ、ら、

五日

時、今朝留東功、天吹より久に離縁し、此し
との決まりと云ふ事、意ののりうと一筋の事
ハ、事多し我儘の事、困りの事、此の如き
：路を退院せし、らるる首領を生じ、事あり、
如し、困りの事、也、彼高破鏡、事、七知んず、
十時日比谷園者、彼の陳列、海世、修養者
似顔を一現、今、海、彼、と、詠し、ある、事
の、為、の、現、望、眼鏡を、輝ひ、克、此、三人、此、事
可、二、飯、し、余、ハ、浅、事、の、教、業、決、入、心、の、回

昔と過り一二を得、昔田の残金、身、此、十、田
耕、海、新、海、故、之、波、考、一、お、わ、さ、し、る、事、也、
す、中、田、ガ、リ、ヤ、の、切、花、を、器、く、後、後、其、破、法、に、
物語を讀む

二日

時、此、海、新、海、主、田、也、彼、ら、う、田、者、彼、テ、一、の、者、類
と、寄、せ、来、る、フ、ラ、ー、ク、茂、塩、洋、昌、貞、ら、来、る、
ハ、在、以、上、ニ、ハ、久、江、年、一、中、由、海、吾、来、訪、山、田、致
候、之、前、す、此、海、新、海、新、年、時、録、に、名、が、
川、守、日、は、海、の、故、梅、の、入、心、千、を、載、也

以しといふ位か、其後巻本を郵送す、
其破法四物修復す、二時出ぬ、
紙の獨り
紙幣標本をとり、
種を婚ふ、
四谷三河老に贈り、
故江部
漢夫の以て義金募集集の通牒到す、

七日

西朝系新紙とす、
木崎好尚平山等、
出状とす、
並木元、
高村生、
名倉次、
来橋、
萩や、
飯を切り拂ふ、
午後又葉

研：
新し、
夕刻、
東京文化新聞、
付録、
日本図書館、
協会の、
こと、
可也

八日

晴、
片山、
山本、
功、
新、
紙、
紙、
集、
と、
報、
先、
し、
去、
る、
十、
時、
の、
紙、
印、
刷、
を、
此、
の、
重、
役、
会、
に、
任、
ず、
今、
後、
の、
後、
工、
作、
を、
見、
る、
午、
後、
一、
時、
出、
ぬ、
部、
の、
重、
役、
会、
に、
任、
ず、
本、
功、
の、
決、
り、
集、
を、
決、
し、
一、
紙、
南、
本、
三、
割、
と、
決、
し、
後、
更、
改、
す、
本、
一、
七、
重、
任、
と、
決、
す、
二、
時、
早、
大、
の、
催、
事、
也

今之略又校度観定と徹す余も是を
由修正を加ふ所あり四時合紙より久
吹天婦方の葛原三付一時破鏡を懸念
せしが、品川の九持よりくるべきを得たり是
今井別荘と功を娘を伴ひ来り余の
家より宿す

九。

日曜

晴坂上の花より浮材を施す早大高利生
赤葉アルバムに余の影を収めん為め宿す
山を老し宿り、旋録を筆に七午時あり
木崎愛克より余の命を嘱し、池原山陽
の序文福持参り、寺の宮詣り七刻、山田教
城より其の村幸へ、寺物代三十四、二田拂
未崎去り後日人の友人佐伯仲義より此
人早大に尋ふ人、海流、時を候し、五時云
ふ、今井母子を藤原の次男居居し、近へ
暖かいを思ふ有光七回唐

十日

昨の如く、今夜多國に湯の山田河内程
村宗八高須徳信系功高須と信徳
高須進行者他三打合と力有。古池素三
三原杏所の五原の橋を高くし来り示す。
高ちつて後雜録を著す。新内山田敷
城の状況を見る。稀者複巻分三期十
月を以つて是き最後の配本と云く。本月
より中四期に入る。午後供と散策神田の青
川五の園に出る。嬉し。晩方村幸。若干の園に出
る。皆嬉し。しと及す。

十一日

晴。朝斗遊覧を断りし。森岡文化会への科
遊近所の状況を報す。大石理の余の遊
筆、鞍山湯の見本組を高くし来り示す。
任平一の約午二件。三付文三井渡士と功
来り云々と報告す。森岡再来。午後合井
母子来り。和園に園方を造る。後子不有し
丹三倉平と山牧を見る。新内河内院の
梨果を贈り来る。

廣井一平幼午時、山田敬保らと山田
村山、遊藝と遊著を考へて來り、一時之を
付めて出遊、銀座に物を賭ひ、刻む教
養、大不敬、漢難、大即死刑の判決を食
金砂子の鑑あり、唯第一、遊藝を賭ひ

十四日

明、田村素脚、関つらり、文と才、梅、文
化、及祥分の記念、旋徳に収むべき余の
漢、歌、奉、記の校正を始あり、田代、亮、在
り、才者、帝國、圖書、館、と、記念、刊
行物を賜り來り、関つらり、物を考へ
午後、田中、唯、下、未、之、人の、出、み、式、臨、之、由
定後、物、詠、事、日、記、を、校、訂、し、時、を、後、す
京都、島、和、田、書、名、の、出、状、到、り

十五日

明、文化、會、記念、誌、に、収、む、べき、余、の、漢、詠、事、日、記、を
校、訂、し、協、會、子、詠、事、考、り、山、田、西、尾、村、山
尾、一、平、内、山、者、三、三、節、と、旋、徳、を、宣、せ、す
内、務、大、光、と、電、話、を、交、り、旋、録、を、考、り、す

時と移す。高橋松四郎、過坂帯と老し
て返程、梅干一樽をおく。来り、丹美の
一族丹美外次郎、お徳、人昌、抱久、くハワ
い、入立つて、今後の去就を定めんを母
孫、依為、印一、流、添、乞、と付す。才二期分所
得税、徴税通牒到る。北城、新報、新、年、附録
の用と、色紙四五枚、押、直、毫、す。十一月三
十日、結、圓、神、社、能、未、堂、に、移、り、大、隈、光、侯、紀
念、堂、業、後、授、り、能、未、堂、を、借、り、來、り、雨、状
大、隈、屋、修、り、來、り、時、分、井、田、の、名、符、を、以、て、
夙、月、を、に、飯、を、あ、り、

十一月 日

時、朝、年、修、銀、を、奉、り、す。人、を、召、合、の、在、(老)
書、地、の、経、界、に、基、石、を、置、け、り、山、田、内、心
西、村、真、流、行、村、宗、八、來、流、年、後、光、を、付、お
し、出、給、。新、宿、の、武、花、屋、銀、に、映、畫、を、見、渡、し
入、り、由、り、旅、費、を、こ、ろ、小、倉、を、名、物、
賜、り、來、り。

